

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470100435		
法人名	有限会社すずらん		
事業所名	すずらん大山田		
所在地	三重県桑名市大山田2丁目7-11		
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 20日	評価結果市町提出日	令和4年10月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470100435-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 4 年 9 月 9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな住宅地にあり、周りは池あり公園ありで、密集地ではなく、緑豊かで四季の移りかわりがよく感じられる。少人数で生活感もあり、また旬の食材を取り入れた手作りの食事は利用者からも好評で、毎日の食事が楽しみの一つ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

桑名市が開発した大型団地の一角に事業所がある。事業所の建物は、一般的な民家風建物で周辺の住宅と違和感がない。すぐ隣に調整池があり、野鳥が飛んで、木々や植物が水辺に生えて自然豊かな環境である。学校もあり、消防署にも近く、店舗や公共施設などがあって生活するのに便利なところである。コロナ禍が始まって2年以上が経過し収束の見通しが立っていない現在、利用者はホームから出ること面会も制限された状況が続いている。ここはグループホームとデイサービスが一つになって運営がされており、グループホーム利用者は6名、デイサービス利用者は10名である。デイサービス利用者は同一法人が運営している有料老人ホームに入所しており、日曜日を除き朝から夕方までグループホームに来て一緒に生活をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人を尊重すると共に地域の人とも関わり、みんなで支え合いながら、その人の生活を支援している。	理念は、玄関と2階階段の上り口に掲げている。管理者から職員へ折々に話をして共有している。利用者それぞれその人らしい生活を送れるように支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	住宅街にあり、自治会にも加入しており、また地域運営推進委員を通じ地域と交流している。	自治会に加入し、地域とのつきあいは大事と考えているもののコロナ禍にあって、交流はできていない。地域の清掃活動には参加をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じ、事業所の取り組みを話したり、民生委員さんから地域の様子を知らせていただいたりして、励まし合ったり、助言出来るところは助言している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染症の影響でテーマについて意見を伺い、議事録を作成する事で緩和されることになりました。	新型コロナウイルス感染防止のため、運営推進会議の開催は中止をしているが、2か月に1回、議題を明記して議事録をもって代わりとしている。管理者は議事録を構成員に持参し、意見を聞き運営に活かすようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険で色々な相談をしたり、介護保険更新の代行で、市役所との連携をとっている。	運営推進会議の議事録を市の担当者へ持参、意見を聞き助言を得ている。利用者に生活保護の方がおり、市の担当者とは連携をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き、職員は身体拘束をしないケアについては十分理解できている。圧迫骨折で車椅子からの転落防止の為に、家族の許可を得て固定させてもらっている。	拘束の弊害については、常に念頭に置いて職員にも会議の場・現場で、折々に注意をして拘束をしない介護に努めている。現在、高齢のため身体が不安定な方があり、車いすでの安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の意識を日々新たにする為、勉強会に参加したり話し合いを持ち、職員間の意識を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護を利用されている方も有り、個々の生活事情では、必要性を認識している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は重要事項説明書を読み上げ、質問等にお答えして、ご家族様に理解・納得して頂いてからサイン・捺印を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様からの意見はすぐに職員間で共有しサービス向上につなげるよう努力するが、ご家族様からの意見がないのが現状である。	面会を制限・中止にしている中で、家族から直接意見を聞けないが、電話で情報交換をしている。利用者の家族から、「ひ孫が生まれ、おばあちゃんに見てもらいたい」と要望があり、面会制限中であつたが短時間ながら玄関で直接会う支援ができた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見は、職員会議等で管理者・職員間で話し合ってます。	管理者は現場で職務についており、いつも職員の動きや思いはその都度把握して、サポートしている。職員から入浴介助で、利用者の状態に合わせて浴槽の中まで職員が入って介助した方がいいのではないかと提案があり実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や個々の労働状況を把握し、勤務体制をとり、職員が働きやすい職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者、責任者は職員の業務の姿勢、力量を把握し、施設内研修は実施。コロナ禍の為に外部での研修は行われてない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は現状では行っておりません。コロナ禍の為。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者とコミュニケーションをとることで早期にその方の意志や心境を確認している。家族からの情報も詳しく聞き取り、安心して生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が抱えている不安や要望をお聞きして、その支援に努め、また初期においては随時連絡がとれ、不安のないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の要望をお聞きして、出来るだけその気持ちに添えるケアに努めたいと思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の声かけに気を付けてその方のできる部分を認め、自立に向けた支援に努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常の生活ぶりを御家族の方にも知らせ、ご本人と御家族の関係が途切れないように心がけております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍にて、面会の制限されている。	コロナ禍で馴染みの人の訪問はなく、場所にも行っていないが、携帯電話を持っている利用者は家族との通話を楽しんでいる。また、事業所の固定電話を使って通信をしている利用者もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションがとれるように職員が間に入るなどして支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要・要望が合った場合はご本人・ご家族の相談に応じていきたいと思っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちや暮らし方をお聞きすることは非常に難しい状態ではあるが、本人の気持ちを推測してケアに心がけている。	いつもその日その時の表情や仕草を把握して思い意向を推測し、支援に努めている。その人らしい生活を送れるよう、一日が穏やかでゆっくりできるように、ひとり一人に寄り添った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境を知り、今後の暮らしに反映していくように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、利用者の方に寄り添い、その方の変化に早く気付けるような支援に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々その人の行動、発した言葉等から課題を見つけ職員間で情報を共有したケアが出来るような介護計画を作成したと考えている。	管理者が介護支援専門員で、グループホームの利用者、デイサービスの利用者の介護計画の担当をしている。受診等で医師との連携はできており、医師からの所見も聞き、職員から意見を聞き、3か月ごとにモニタリングを実施して見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は業務日誌・支援経過に記録しているので、職員間で情報を共有しながらケアをしている。支援経過をみながらの介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズは体調変化による通院介助が多いが、その時に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方の力をお借りしたお楽しみ会、また本人のやれる力を発揮した自立支援に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的またはその時に応じた受診により、適切な医療を受けられるように支援しております。	2か所の医療機関でかかりつけ医が分かっている。月に1回、訪問診療があり、緊急時にも電話で対応をしてもらっている。歯科医も訪問診療で、義歯の点検や口腔ケアの指導を受けている。受診は家族にお願いしているが、家族の状態を勘案して事業所で通院支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師と連携し、適切な処置が出来るように努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時のサマリーを共有しながら医療関係者と連携を取り、情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、入所時に確認をすると共に、終末期に近い状態になりましたら、再確認を行い、関係者と共にチームで支援の取り組みをしています。	看取りはしない方針は利用開始時に説明をしている。終末期になったら医師・家族と相談し、しかるべき対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送、御家族への連絡、かかりつけ医への連絡等の手順を職員全体で日頃から把握し、対応出来るように努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、職員が戸惑わない様に努力しています。また、近隣住民の方の協力が得られるように訓練に参加を願っています。	管理者が防火管理者である。6名の利用者全員が2階での居室になっており、夜間、非常時の避難は外階段の活用であるが、高齢者・認知症を踏まえて、消防署から、はしご車で避難する協力も得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーの保護など職員全体で日々その大切さを確認し支援を行っている。	利用者は、年長の目上の人であるとの認識で接するよう職員には話をしている。特に声かけは羞恥心が伴うトイレ誘導時、名前を呼ぶ時などプライバシーに配慮するように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定しやすいような雰囲気作り、言葉かけをしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性を尊重し、その日の気分や体調に合わせ、ゆとりを持つ過ごし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や職員による髭剃り、整髪その他、定期的に訪問理美容室の来所がある。また、洋服の好みもその人の好みで選んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は楽しみの一つとなっているので、メニューを話し合ったり、嗜好品を用いて食材にしたり、旬の食材を用いたりして、食事が楽しめる工夫をしております。	食べることは一番の楽しみであり、手作りのものを提供して楽しみを支援している。献立は利用者の好みを聞いて把握し、食べやすい物で美味しくを心がけて調理している。職員は食事介助・見守りがあるので一緒に食べれないが、利用者の食事終了後同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分量が確保出来るよう個々の利用者様の状態に合わせた支援に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の利用者様に合わせた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、自力でトイレへ行けない方も声かけによりトイレへ誘導し、介助にて排泄の自立を目指しております。この際プライバシーにも配慮して気を付けております。	ひとりの方がオムツ使用で、ほかの方はリハビリパンツ・パットを使用して、トイレでの排泄支援をしている。夜間はポータブルトイレを利用する方もある。夜間、無理に起こして排泄させることはしていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックを行っています。便秘の方には医師による緩下剤を利用しています。また食事でも食物繊維が含まれる食材を取り入れ、無理のない程度に身体を動かすこともおこなっております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日お風呂に入る事は身体も疲れるので、週3回はゆっくりと入浴できるようにしている。	週3回(火・木・土)の午前中が入浴タイムである。ゆっくりと時間をかけて入る支援で、職員と1対1になる時間でもあるので、利用者の思いや本音が出ることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて就寝して頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報は個々のファイルに保管し、職員は常時確認出来るようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物片づけを手伝って頂いたり、季節行事の折り紙作成など、楽しく過ごされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の為、外出は控えています。	コロナ禍で外出が出来ないのが続いているが、2階の居室から外の景色が見えて、季節感は味わえる。外出できない分、レクリエーションに力を入れて、無理強いくことなく好きなこと、楽しいこと、出来上がった時の達成感を味わえるメニューを提供している。	コロナ禍が収束したら、長い間できなかった外出する支援の実現を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々により使う頻度が異なる日用品の買い物は職員が預かり金の中で買い物をしております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望に応じて電話の取次ぎを支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の保持、空調機で室温管理・換気に配慮しております。周りの景色が良いので季節の移り変わりを感じてもらっています。	1階のフロアは、デイサービス利用者と一緒に賑やかな様子である。唯一、日曜日はデイサービス利用者は休みで、グループホーム利用者だけでフロアを広々として使えるので、スイカ割りなどをして楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はリビングで過ごされています。体調の悪い時は静養室を利用されます。自分の居室へ行かれたり、気に入った場所で過ごされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビを観たい方は各自持参です。寝具等も自分の使いたい物を持ってきていただいています。	各居室はクローゼットがあり、衣類など整理して収納されている。テレビやパソコンを持ち込んでいる方もある。壁に自作の塗り絵や写真が飾られて、それぞれ思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活全般にわたり、ご自身で出来ること、介助が必要なことを見極め、自立に向けた支援に努めております。		